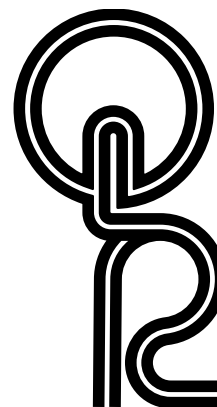


# QR Newsletter



## 第四紀通信

Vol. 15 No.4, 2008



「覆い型野焼き」による実験後（手前：北部九州の弥生時代後期をモデルにした新節約高密閉型，奥：北部九州の弥生時代早・前期をモデルにした低密閉型），土器の焼成具合や黒斑形成箇所をチェックする参加者。（日本第四紀学会講習会「土器の野焼きと調理に関する実験考古学」にて 2008年6月8日 東北芸術工科大学撮影・提供）

Vol. 15 No. 4

August 1, 2008

総会のお知らせと委任状 . . . . . 2	島原市公募 . . . . . 21
大会予告（第4報） . . . . . 3	パレオ・ラボ助成 . . . . . 22
PAGESリスト . . . . . 12	猿橋賞募集 . . . . . 23
寄稿・訃報 . . . . . 14	深田研談話会 . . . . . 24
講習会報告 . . . . . 15	深田研ライブラリー . . . . . 24
幹事会議事録 . . . . . 17	東海地震セミナー . . . . . 27
国立極地研教員公募 . . . . . 18	会員消息 . . . . . 28
立正大教員公募 . . . . . 20	

## 日本第四紀学会総会のお知らせとお願い

8月23日(土),東京大学にて2008年総会が開催されます。会員各位のご出席をお願い申し上げます。

やむを得ず欠席される場合は,委任状(とじ込みのはがきまたはファックス)を必ずご提出下さい。

委任状をはがき・ファックスで送付される場合は,8月20日(水)必着でお願いします。

FAX: 047-308-8720

千葉大学園芸学部

日本第四紀学会庶務幹事 百原 新あて

### 総 会 委 任 状

2008年 月 日

日本第四紀学会 2008年総会議長殿

私は議長(または )氏)を代理人と定め,  
2008年の日本第四紀学会総会におけるいっさいの議決権を委任します。

氏 名( ) (署名または捺印)

所 属( )

## 日本第四紀学会2008年大会のお知らせ(第4報)

日本第四紀学会2008年大会は以下の予定で開催されますので、皆さん多数のご参加をお願いいたします。

### 1. 日程概要・会場

会場：東京大学本郷キャンパス理学部1号館小柴ホール(東京都文京区本郷7-3-1)

#### 日程：

#### 8月22日 一般研究発表

- 9:00-10:10 一般研究発表(オーラルセッション O-1 ~ O-5)
- 10:10-10:20 休憩
- 10:20-11:30 一般研究発表(オーラルセッション O-6 ~ O-10)
- 11:30-12:30 一般研究発表(ポスターセッション ショートサマリー P-1 ~ P-26)
- 12:30-13:20 昼食・休憩
- 13:20-14:00 ポスターセッション コアタイム
- 14:00-15:24 一般研究発表(オーラルセッション O-11 ~ O-16)
- 15:24-15:40 休憩
- 15:40-17:04 一般研究発表(オーラルセッション O-17 ~ O-22)
- 17:20-20:00 評議員会：理学部1号館 地球惑星科学専攻336号室  
ポスターセッション会場は小柴ホール前のラウンジ，展示時間9:00-17:30

#### 8月23日 一般研究発表・総会

- 9:00-10:24 一般研究発表(オーラルセッション O-23 ~ O-28)
- 10:24-10:30 休憩
- 10:30-12:00 総会
- 12:00-13:00 昼食・休憩
- 13:00-13:40 ポスターセッション コアタイム
- 13:40-14:50 一般研究発表(オーラルセッション O-29 ~ O-33)
- 14:50-15:00 休憩
- 15:00-15:56 一般研究発表(オーラルセッション O-34 ~ O-37)
- 15:56-16:10 休憩
- 16:10-17:06 一般研究発表(オーラルセッション O-38 ~ O-41)
- 17:30-19:30 懇親会：東京大学山上会館1階談話ホール  
ポスターセッション会場は小柴ホール前のラウンジ  
展示時間9:00 ~ 17:15(17:15までに撤収)

8月24日 シンポジウム「第四紀後期の気候変動と地球システムの挙動 - その原因とメカニズムの解明に向けて -」：東京大学本郷キャンパス理学部1号館小柴ホール  
9:00-17:20 S-0 ~ S-9

8月25-26日 巡検「関東東部沿岸域の地質・地形・人間活動」  
申込締切は8月9日

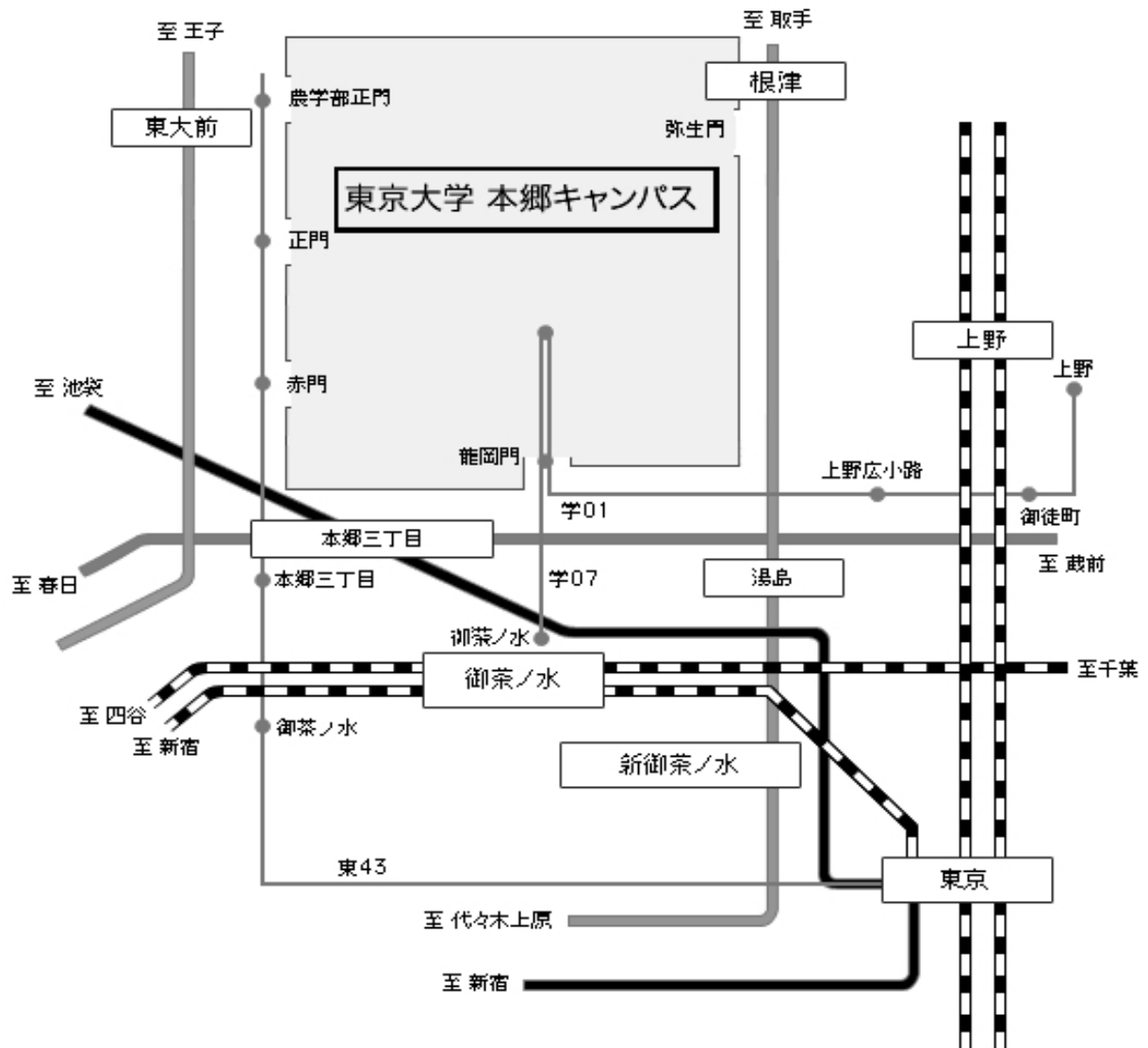
11月16日 普及講演会「極限のフィールドワーク：南極観測からわかる地球環境変動の過去と未来」：国立科学博物館日本館2階講堂(東京都台東区上野公園7-20)(予定)  
13:00-17:00(予定)

上記以外に開催される委員会  
 8月22日 12:30-13:20 幹事会：理学部1号館 地球惑星科学専攻336号室

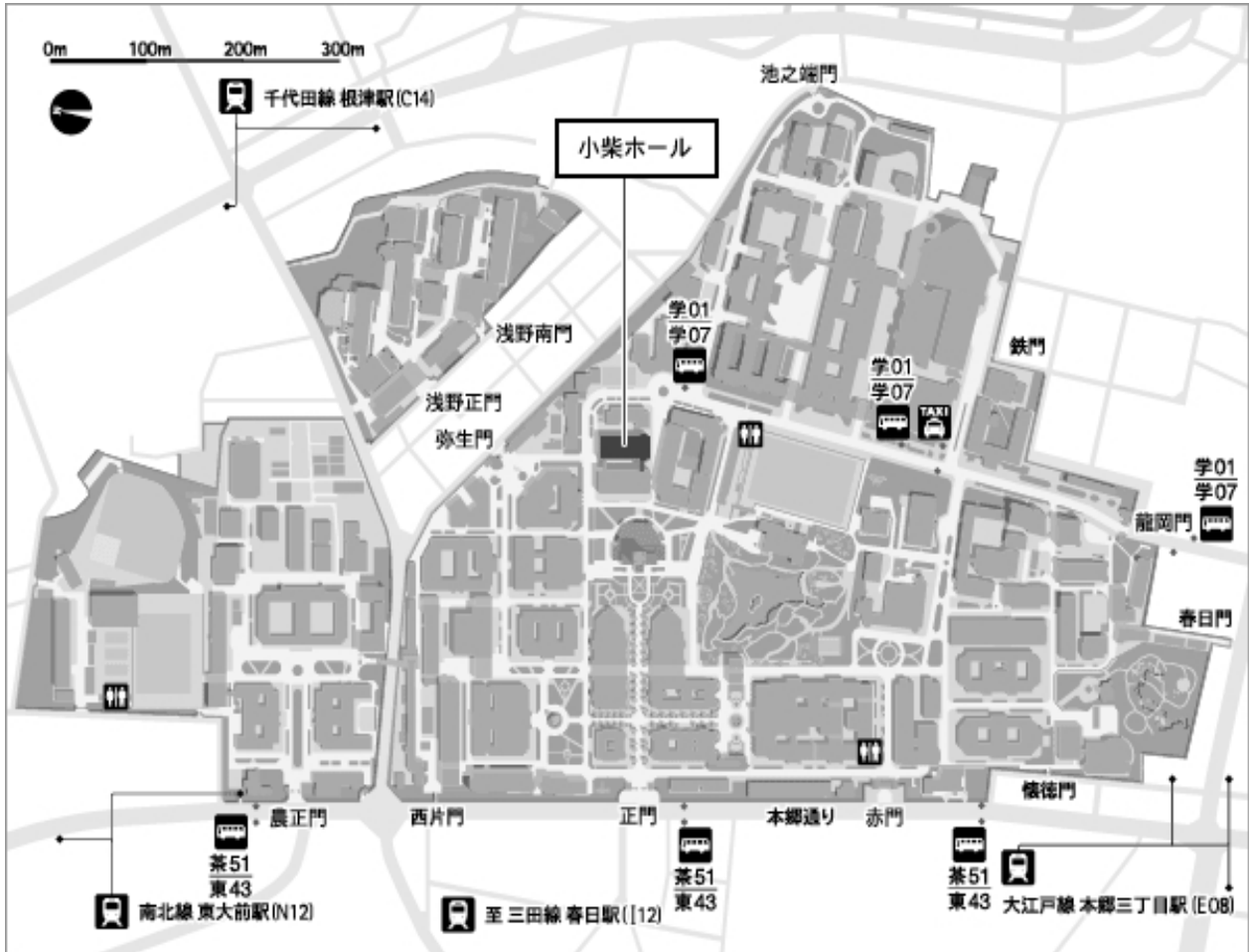
2. 会場案内

本郷三丁目駅（地下鉄丸の内線）.....	徒歩 8分
本郷三丁目駅（地下鉄大江戸線）.....	徒歩 6分
湯島駅又は根津駅（地下鉄千代田線）.....	徒歩 8分
東大前駅（地下鉄南北線）.....	徒歩 1分
春日駅（地下鉄三田線）.....	徒歩 10分

日本第四紀学会2008年大会（東京大学）への交通案内



## 日本第四紀学会 2008年大会（東京大学）の会場案内 東京大学構内



### 3. 巡検

巡検「関東東部沿岸域の地質・地形・人間活動 (Geology, landform and human activity in the coastal area of eastern Kanto Plain)」

日程：2008年8月25日（月）～26日（火）1泊2日

案内者：岡崎浩子，目代邦康，田村 亨，中里裕臣，中島 礼，納谷友規，江口誠一

関東平野東部の沿岸地域の更新世～現在までの環境変遷や形成プロセスを台地（飯岡台地と鹿島台地）の地質や，低地（九十九里浜平野と霞ヶ浦）の地形や堆積物などからみていきます。また，それらに基づく人間の生活様式や生産活動などもあわせてみながら，この地域の第四紀を包括的に観察します。

巡検の概要と日程（予定）

8月25日（月）8：15 千葉駅西口 NTT千葉前集合 バスにて九十九里浜平野に向かう

- ・ 九十九里浜平野（海岸地形と海浜堆積物ポーリングコア観察，浜堤列と漁労集落見学）
- ・ 飯岡台地（犬吠層群 Ob1,2 (Kd39,38), Ty1 (TE-5) テフラと香取層観察）

宿泊：かんぼの宿潮来 〒311-2404 茨城県潮来市水原 1830-1 TEL 0299-67-5611

8月26日（火）

- ・ 鹿島台地（下総層群海成層の観察と貝化石の採集）

- ・霞ヶ浦環境科学センター（湖岸地形観察と施設見学）
- ・上高津貝塚（縄文後期の遺跡と考古資料館見学）  
TX つくば駅 4時解散  
JR 常磐線荒川沖駅 4時半解散  
その他の巡検の詳細については大会第3報をご覧ください。

問い合わせ先：

〒150-0046 東京都渋谷区松濤 1-25-8 松涛アネックス 2F  
自然保護助成基金 目代邦康  
E-mail : 2008qr(at)gmail.com

#### 4. 口頭発表要領

会場にはWindowsパソコンおよびMacintoshパソコン各1台に接続した液晶プロジェクターを用意します。Windowsでは、Microsoft Office PowerPoint 2007（及びそれ以下のバージョン）、Macintoshでは、Microsoft Office PowerPoint 2008（及びそれ以下のバージョン）を用いた発表が可能です。またこの備え付けのパソコンを使用される場合には、データファイルをパソコンにコピーする必要があります。ファイルをUSBメモリーかCDに入れたものを、発表時間よりも前の休憩時間に会場演台の発表用パソコン対応の担当者まで持ってきてください。別のソフト、またはご自分のパソコンの使用を希望される場合には、ご自分のパソコンを持参して、接続してください。また、OHPを用いた発表も可能です。

#### 5. ポスターセッションの発表要領

ポスターは大会期間中8月22日9:00～8月23日17:15まで掲示できます。会場は小柴ホール前のラウンジです。

ポスターセッションコアタイム：8月22日13:20-14:00および8月23日13:00-13:40を説明時間帯に設定しています。

ポスターセッションのショートサマリー発表を8月22日11:30-12:30に1件当たり2分間以内で行います。ここではOHPのみ使用することができます。

ポスターのボード面積は1題あたり、縦172cm、横112cmです。ポスターをとめる画鋏やテープなどは会場で用意します。

ポスターには、発表番号・発表題名・発表者名をポスターのタイトルとして明記してください。発表番号は、第四紀通信のプログラムを参照してください。

ポスター会場でコンピューターなどの使用や、画鋏等で掲示できない重量物等の展示を希望される方は、電子メールにて大会実行委員会事務局の三浦英樹（miura(at)nipr.ac.jp）まで連絡してください。

#### 6. 参加費・懇親会申し込み等

大会参加費として、会員・非会員を問わず2,000円を申し受けます。当日会場の受付にてお支払い下さい。ただし、70歳以上の会員と学部学生、シンポジウム依頼講演者は無料です。

講演要旨集は会場で直接販売いたします（予定価格2,000円）。大会終了後通信販売もいたしますので、購入希望の方は下記へお申込ください。

〒162-0041 新宿区早稲田鶴巻町 519 番地 洛陽ビル 3階 日本第四紀学会事務局  
E-mail : daiyonki(at)shunkosha.com  
TEL : 03-5291-6231, FAX : 03-5291-2176

懇親会に参加される方は、当日受付において申し込みをお願いします。参加費は、一般5000円、学生2500円です。

## 7. 大会実行委員会および連絡先

実行委員会委員長 多田隆治  
 実行委員 須貝俊彦 横山祐典 三浦英樹  
 連絡先：実行委員会事務局長 三浦英樹  
 〒173-8515 東京都板橋区加賀 1-9-10  
 国立極地研究所  
 E-mail : miura(at)nipr.ac.jp  
 Tel : 03-3962-8095  
 Fax : 03-3962-5741

## 8. プログラム

オーラルセッション：東京大学本郷キャンパス理学部1号館小柴ホール  
 2008年8月22日（金）

- | No.  | 講演時間        | 題名 .....                                  | 氏名（所属）  |
|------|-------------|---|---|
| ○-1  | 9:00-9:14   | 鎌倉市北東部および横浜市南西部上郷付近における上総層群下部のテフラ鍵層 ..... | 安野 信・稲垣 進（二俣川高）・満岡 孝・西川達男   |
| ○-2  | 9:14-9:28   | 茨城県常陸台地における下総層群のテフロクロノロジー .....           | 大井信三（国土地理院，茨城大）・横山芳春（早稲田大）・菅沼悠介（東京大）・安藤寿男（茨城大）・小荒井 衛（国土地理院，茨城大）       |
| ○-3  | 9:28-9:42   | 犬吠層群倉橋層 Kh6b テフラの分布と給源 .....              | 中里裕臣（農村工学研）・中澤 努（産総研）   |
| ○-4  | 9:42-9:56   | 群馬県高崎市（GS-TK1）コア層序の再検討 .....              | 竹本弘幸（日本大）・中村正芳（本庄高）・下司信夫（産総研）   |
| ○-5  | 9:56-10:10  | トカラ列島における後期更新世以降のテフラ .....                | 森脇 広・永迫俊郎（鹿児島大）   |
|      | 10:10-10:20 | 休憩  |   |
| ○-6  | 10:20-10:34 | 恐山火山カルデラ形成後の噴火活動史 .....                   | 岡島靖司・志村 聡・荒川武久・水上啓司（リサイクル燃料貯蔵）・宮脇理一郎・百瀬 貢（阪神コンサルタンツ）・小林 淳（ダイヤコンサルタント） |
| ○-7  | 10:34-10:48 | 恐山火山宇曾利カルデラ内で確認した最近6万年間の堆積物 .....         | 荒川武久・岡島靖司・水上啓司（リサイクル燃料貯蔵）・宮脇理一郎・青木道範（阪神コンサルタンツ）・小林 淳（ダイヤコンサルタント）      |
| ○-8  | 10:48-11:02 | ウィグルマッチング法による榛名渋川噴火の年代決定（再検討） .....       | 中村賢太郎（パレオ・ラボ）・早川由紀夫（群馬大）・藤根 久・伊藤茂・廣田正史・小林紘一（パレオ・ラボ）                   |
| ○-9  | 11:02-11:16 | ウィグルマッチングによる房総半島館山平野のイベント堆積物の年代 .....     | 大里重人（土質リサーチ）・藤根 久（パレオ・ラボ）・石綿しげ子（基礎地盤コンサルタンツ）・藤原 治（産総研）・遠藤邦彦（日本大）      |
| ○-10 | 11:16-11:30 | 房総半島における元禄関東地震後の影響 .....                  | 村岸 純（首都大）   |
|      | 11:30-12:30 | ポスターセッション ショートサマリー                        |   |
|      | 12:30-13:20 | 昼食・休憩                                     |   |
|      | 13:20-14:00 | ポスターセッション コアタイム                           |   |
| ○-11 | 14:00-14:14 | 房総半島，湊川流域に分布する酸素同位体ステージ3の海成段丘 .....       |   |

- 菊地隆男(立正大)・清永丈太(東京都)  
 O-12 14:14-14:28 静岡県中部御前崎の地層と地形が示す完新世の地殻変動.....  
 藤原 治(産総研)・平川一臣(北海道大)・入月俊明(島根大)・長谷川  
 四郎・内田淳一(熊本大)・長谷義隆(御所浦白亜紀資料館)・阿部恒平  
 (筑波大)・春木あゆみ・三瓶良和(島根大)  
 O-13 14:28-14:42 2007年新潟県中越沖地震の活構造上の意義と佐渡海盆東縁断層の地震ポ  
 テンシャル.....石橋克彦・田淵裕司・原田智也(神戸大)  
 O-14 14:42-14:56 FT熱年代に基づいた六甲山地の冷却・削剥史.....末岡 茂(京都大)  
 O-15 14:56-15:10 鬼怒川上流域における地形発達史と河成地形面に基づく第四紀後期の隆  
 起量推定.....山田真誉(法政大)・鈴木毅彦(首都大)  
 O-16 15:10-15:24 気候変化・海面変化・地殻運動による流域地形発達シミュレーションと  
 テフロクロノロジ - による地形形成時代区分.....野上道男(無所属)

15:24-15:40 休憩

- O-17 15:40-15:54 飛騨山脈・白馬岳東麓におけるターミナル・モレーン状地形の成因.....  
 苅谷愛彦(専修大)・佐藤 剛(帝京平成大)・小森次郎(日本大)  
 O-18 15:54-16:08 陸から深海までの砂の旅: OSL を利用した砂粒子運搬過程評価.....  
 白井正明(東京大)  
 O-19 16:08-16:22 宇宙線照射生成核種を用いた南米, チリ・アタカマ砂漠における地表面  
 浸食速度の定量.....  
 城谷和代(東京大)・横山祐典(東京大, IFREE/JAMSTEC)・松崎浩之  
 (東京大)・Eugenio Veloso(北カトリック大)  
 O-20 16:22-16:36 東南極スカルプスネス地域における最終退氷の時期.....  
 山根雅子・横山祐典(東京大)・三浦英樹(国立極地研)・前杵英明・岩  
 崎正吾(広島大)・松崎浩之(東京大)  
 O-21 16:36-16:50 宇宙線生成核種を用いた南極ドームふじアイスコア中の古地磁気イベン  
 トの分析.....  
 阿瀬貴博・横山祐典(東京大)・堀内一穂(弘前大)・松崎浩之(東京  
 大)・植村 立・本山秀明(国立極地研)  
 O-22 16:50-17:04 放射線炭素年代補正曲線: 最終氷期のサンゴのウラン系列核種を用いた  
 補正の進展と問題点.....  
 横山祐典(東京大, IFREE/JAMSTEC)・エサット テザー(オースト  
 ラリア核物理および工学研)

17:20-20:00 評議員会(東京大学理学部1号館地球惑星科学専攻336号室)  
 ポスター展示時間 9:00-17:30(9:00から展示可能です)

2008年8月23日(土)

- O-23 9:00-9:14 フィリピンのサンゴを用いた南シナ海の中期完新世古環境復元.....  
 小林達哉(東京大)・横山祐典(東京大, IFREE/JAMSTEC)・鈴木 淳  
 (産総研)・シリガンフェルナンド(フィリピン大, 東京大)・前田保夫  
 (兵庫県立大)・岡井貴司(産総研)・井上麻夕里・松崎浩之・川幡穂高  
 (東京大)  
 O-24 9:14-9:28 鹿島沖コア MD01-2421 の花粉から見た北西太平洋における過去  
 144,000年間の気候変動.....  
 五十嵐八枝子(北方圏古環境研究室)・山本正伸(北海道大)  
 O-25 9:28-9:42 大阪湾堆積物の花粉分析によるマツヤマ・ブリュンヌ地磁気逆転期の高  
 精度気候層序.....  
 北場育子・兵頭政幸(神戸大)・加藤茂弘(兵庫県立人と自然博)・松下  
 まり子(奈良文化財研)  
 O-26 9:42-9:56 隠岐堆と鹿島沖海底コアの古環境記録の比較.....大場忠道(北海道大)



- 27 9:56-10:10 堆積魚鱗記録から見た過去 1500 年間の魚類資源変動 .....  
加 三千宣・武岡英隆(愛媛大)・杉本隆成(東海大)
- 28 10:10-10:24 堆積魚鱗の窒素・炭素安定同位体比によるカタクチイワシ主要索餌場の  
推定 .... 石田慎悟・加 三千宣・武岡英隆(愛媛大)・杉本隆成(東海大)
- 10:24-10:30 休憩  
10:30-12:00 総会  
12:00-13:00 昼食・休憩  
13:00-13:40 ポスターセッションコアタイム
- 29 13:40-13:54 Late Glacial environmental change at Lake Suigetsu, central Japan:  
preliminary evidence from bulk and compound specific organic iso  
tope geochemistry .....  
Jonathan Tyler(東京大)・横山祐典(東京大, JAMSTEC)・大河内直  
彦(JAMSTEC)・中川 毅(ニューカッスル大)
- 30 13:54-14:08 古地磁気強度および宇宙線生成核種生成率に基づく長期太陽活動の復元  
とその気候変動への寄与の解明に向けて .....  
菅沼悠介・横山祐典(東京大)・山崎俊嗣(産総研)
- 31 14:08-14:22 小氷期における樹木年輪セルロースの d18O 変動パターンと, 太陽活動  
との関連性 .....  
山口保彦・横山祐典・宮原ひろ子(東京大)・中塚 武(北海道大)
- 32 14:22-14:36 日本における第四紀の古気候変動研究の戦略的展望 .....  
公文富士夫(信州大)
- 33 14:36-14:50 東京都八王子市の下部更新統から日本初産出のシカマシフゾウ頭骨化石  
小泉明裕(飯田市美術博物館)
- 14:50-15:00 休憩
- 34 15:00-15:14 柏崎平野の地下構造と沖積層の年代 .....  
鴨井幸彦(興和)・安井 賢(甲賀地盤調査)・中村清朗(明治コンサル  
タント)・石橋輝樹
- 35 15:14-15:28 埼玉県北西部, 荒川低地における黒色有機質シルト層の年代と分布 .....  
榆井 尊(埼玉県立自然博)・小林健助
- 36 15:28-15:42 殻長と底質粒度組成の関係から見た小櫃川河口域における珪藻殻の運搬・  
堆積過程.....千葉 崇(東京大)
- 37 15:42-15:56 サロベツ湿原における植生変化の要因.....  
紀藤典夫(北海道教育大)・森永未央(北海道キリンビバレッジ)・吉川  
優樹
- 15:56-16:10 休憩
- 38 16:10-16:24 北海道縄文時代アスファルト遺物のバイオマーカー分析 .....  
佐々木榮一(石油資源開発)
- 39 16:24-16:38 土器附着炭化物と現生生態試料の炭素年代測定結果から推定される琵琶  
湖における淡水リザーバー効果 .....  
宮田佳樹・遠部 慎(国立歴史民俗博)・南 雅代(名古屋大)・坂本  
稔・今村峯雄(国立歴史民俗博)
- 40 16:38-16:52 遺跡出土の自然木はどこまで自然なのか? - 狭山丘陵の二つの遺跡出土  
木材による検討 .....  
能城修一(森林総合研)・佐々木由香(パレオ・ラボ)・鈴木三男(東北  
大)
- 41 16:52-17:06 東京都下原・富士見町遺跡の旧石器接合資料 .....

長沼正樹・野口 淳・藤田健一・安蒜政雄・明治大学校地内遺跡調査団  
(明治大)

17:30-19:30 懇親会(東京大学山上会館1F 談話ホール)

ポスター展示時間 9:00-17:00(17:30までに完全撤収)

ポスターセッション: 東京大学本郷キャンパス理学部1号館小柴ホール前のラウンジ

- No. 題名..... 氏名(所属)
- P-1 地形発達モデルについてのGIS解析 - 東北日本弧を例として - .....  
田中信行・卯田 強(新潟大)
- P-2 旧版地形図を用いた数値標高データの作成 - 福岡市史における試み - .....  
黒田圭介(西南学院大, 福岡市史編さん室)・黒木貴一(福岡教育大)・宗 建郎(西南学院大, 福岡市史編さん室)
- P-3 コンピュータシミュレーションを用いた断層撓曲と断層パラメータの解明 - 立川断層を事例として - ..... 安藤広一・山崎晴雄(首都大)・中村恭志(東京工業大)
- P-4 真鶴半島周辺の溶岩の水冷構造 - 隆起・沈降の指標として - ..... 及川輝樹(産総研)
- P-5 複数のボーリングコア解析に基づく濃尾平野における完新世後期の地震性沈降.....  
丹羽雄一・須貝俊彦・大上隆史(東京大)・田力正好・安江健一(日本原子力研究開発機構)・藤原 治(産総研)
- P-6 北上低地西縁に分布する"更新統"三ツ沢川層の層序学的諸問題.....  
立石 良・鎌滝孝信・三輪敦志(応用地質)・儘田 豊(原子力安全基盤機構)・今泉俊文(東北大)
- P-7 越後平野北縁部の時代未詳更新統・梨木層の層序, 植物化石およびテフラ.....  
小松原 琢(産総研)・百原 新(千葉大)・水野清秀(産総研)・古澤 明(古澤地質調査事務所)
- P-8 火山ガラスの化学組成に基づくボーリングコア間の対比 - 高野層TKN2004 コアとTKN2007 コアの例 - .....  
長橋良隆・高橋敦子(福島大)・佐藤孝子・田原敬治・公文富士夫(信州大)
- P-9 更新統高野層TKN-2004 / 2007 コアの対比と古気候変動の解析.....  
田原敬治・公文富士夫(信州大)・長橋良隆(福島大)
- P-10 愛媛県宇和盆地における約70万年間の連続コア(予報).....  
大野裕記・西坂直樹(四国電力)・池田倫治(四国総合研究所)・市川清士(駒澤大)・須貝俊彦(東京大)・古澤 明(古澤地質調査事務所)・柳田 誠・佐藤 賢(阪神コンサルタンツ)・守田益宗(岡山理科大)
- P-11 斜長石斑晶の屈折率を用いたテフラ対比法の有効性の検討..... 大石雅之(首都大)
- P-12 LA-ICP-MSによるシングルグレイン火山ガラス微量元素分析の広域テフラ同定への応用..... 青木かおり(立正大)
- P-13 下北半島恐山火山周辺に分布する田名部Dテフラのジルコン結晶を用いたフィッシュン・トラック年代..... 桑原拓一郎(産総研)
- P-14 テフラGISの構築とハザードマップへの利活用.....  
小荒井 衛(国土地理院, 茨城大)・鈴木毅彦・中山大地(首都大)・大井信三(国土地理院, 茨城大)・佐藤 浩(国土地理院)
- P-15 九十九里平野北部における縄文時代の海域生態系と海退プロセス.....  
一木絵理・村田泰輔・國木田 大・辻 誠一郎(東京大)
- P-16 瀬戸内海東部沿岸域の海洋酸素同位体ステージ(MIS)7における相対的海水準変動..  
伴 芙美香・佐藤裕司(兵庫県立大)・加藤茂弘(兵庫県立人と自然博)
- P-17 石英中の不純物中心による中国の砂漠堆積物の特徴化.....  
山本裕哉・豊田 新(岡山理科大)・磯崎裕子(東京大)・長島佳菜(海洋開発研究機構)・Y. Sun (Chinese Academy of sciences)・多田隆治(東京大)
- P-18 湖岸ボーリングコアからみた琵琶湖における3万年前以降の湖水位変動.....

- 里口保文(琵琶湖博)・小松原 琢(産総研)・宮本真二(琵琶湖博)  
 P-19 日本海堆積物中の花粉粒子の風と海流による長距離輸送 ..... 池原 研(産総研)  
 P-20 妻沼・荒川低地における沖積層の堆積環境の変遷 .....  
 石原武志・須貝俊彦(東京大)・水野清秀(産総研)・八戸昭一(埼玉県環境科学国際  
 センター)・松島紘子(東京大)・久保純子(早稲田大)  
 P-21 青森市新田(1)遺跡における完新統の層序と堆積相 ..... 鎌田耕太郎(弘前大)  
 P-22 立川ローム層下部の土壌生成環境と遺跡形成 - 武蔵野台地南部, 立川面に所在する東  
 京都下原・富士見町遺跡の事例 - .....  
 竹迫 紘(明治大)・原 浩太(東北大)・芝口 怜・野口 淳・林 和広・明治大学  
 校地内遺跡調査団(明治大)  
 P-23 岡山県北部中国山地における微粒炭分析(2) ..... 小椋純一(京都精華大)  
 P-24 タイ東北部サケラートにおける林分ごとの植物珪酸体化石群 .....  
 江口誠一(千葉中央博)・岡田直紀(京都大)・Somkid Siripatanadilok・Teera  
 Veenin(カセサート大)  
 P-25 愛知県朝日遺跡における昆虫化石を用いた古環境復元方法の再検証 .....  
 奥野絵美(名古屋大)・森 勇一(津島東高)  
 P-26 芦生研究林における脊椎動物遺骸モニタリング実験 ..... 沼波 信(京都大)

シンポジウム「第四紀後期の気候変動と地球システムの挙動 - その原因とメカニズムの解明  
 に向けて - 」: 東京大学本郷キャンパス理学部1号館小柴ホール  
 2008年8月24日(日)

- S-0 9:00-9:10 趣旨説明 .....  
 三浦英樹(国立極地研)・横山祐典(東京大)・川村賢二(国立極地研)  
 S-1 9:10-10:00 氷床コアから探る第四紀の地球システム変動 ..... 川村賢二(国立極地研)  
 S-2 10:00-10:40 第四紀後期の南大洋における海洋フロント南北振動と南極氷床変動史 ..  
 池原 実(高知大)  
 10:40-10:50 休憩  
 S-3 10:50-11:30 西南極氷床の完新世における融解 .....  
 大河内直彦(海洋研究開発機構)・横山祐典・小泉真認(東京大)・三浦  
 英樹(国立極地研)・豊田倫子・徳山英一(東京大)・力石嘉人・菅 寿  
 美・北里 洋(海洋研究開発機構)・Timothy I. Eglinton(ウッズホー  
 ル海洋研)  
 S-4 11:30-12:10 二酸化炭素倍増実験と最終氷期極大期実験における気候フィードバック  
 解析 ..... 吉森正和・阿部彩子(東京大)・横畠徳太(国立環境研)  
 12:10-13:10 昼食  
 S-5 13:10-13:50 風送塵の地球環境に与える影響 - 氷期・間氷期, 完新世, 現代 - .....  
 川幡穂高(東京大)  
 S-6 13:50-14:30 北西太平洋海底堆積物に記録された表層環境 ~ 中層循環の1000年スケー  
 ル変動 .....  
 原田尚美・木元克典・岡崎裕典・長島佳菜(海洋研究開発機構)・Axel  
 Timmermann(Hawaii Univ. IPRC)・阿部彩子(東京大, 海洋研究開  
 発機構)  
 S-7 14:30-15:15 北西太平洋とその縁辺域の氷期間氷期変動 ..... 山本正伸(北海道大)  
 15:15-15:25 休憩

- S-8 15:25-16:10 深海堆積物コアに記録されたモンスーン変動 .....  
横山祐典 (東京大, IFREE / JAMSTEC)・堀池智之・成瀬竜洋 (東京大)  
・坂井三郎・小川奈々子・大河内直彦・北里 洋 (IFREE / JAMSTEC)  
・川幡穂高 (東京大)・チェン ミンテ (国立台湾海洋大)
- S-9 16:10-17:00 大型プロジェクト時代の湖成堆積物研究 .....  
中川 毅 (ニューカッスル大)
- 17:00-17:30 総合討論

9. 普及講演会「極限のフィールドワーク：南極観測からわかる地球環境変動の過去と未来」

日時：2008（平成20）年11月16日（日）13:00～17:00（予定）

会場：国立科学博物館日本館2階講堂（東京都台東区上野公園7-20）（予定）

共催：国立極地研究所，国立科学博物館（申請中）

世話人：三浦英樹（国立極地研究所）・齋藤めぐみ（国立科学博物館）

プログラム（予定）:

1. 南極の自然環境と野外調査（フィールドワーク）：探検から研究観測へ .....  
高田将志（奈良女子大）
2. 南極の氷を掘ってなにがわかる？：約1000kmの距離を時速10kmで移動，気温マイナス60度の世界で，3700mの長さの氷の柱を掘り出す理由 .....  
福井幸太郎（国立極地研）
3. 南極の海底を掘ってなにがわかる？：厚さ1.5mの海氷の下は水深600m，薄氷を踏みながら重さ4トンの雪上車が走り回り，海氷上から海底の泥を取り出す理由 .....  
澤柿教伸（北海道大）
4. 南極の砂浜を掘ってなにがわかる？：削岩機で掘っても一日わずか15cm！コンクリートの ような永久凍土に深さ4mの穴を掘り，スコップで砂浜に長さ200mの横穴を掘る理由 .....  
前杵英明（広島大）
5. 南極の石を採ってなにがわかる？：ヘリコプターで飛び回り，ハンマーで60kgの石を採って背負って，3トンの石を集める理由 .....  
岩崎正吾（広島大）
6. 南極の第四紀研究と地球環境変動の研究：南極の氷，地形，石，泥，化石が語る地球の過去と未来 .....  
三浦英樹（国立極地研）

## 古気候・古環境研究の推進のための多分野横断型メーリングリスト（Japan-PAGESリスト）への参加のお誘い

日本学術会議 PAGES 小委員会では下記のような趣旨で，古気候・古環境研究の推進のための多分野横断型メーリングリスト（Japan-PAGESリスト）を立ち上げることになりました。日本第四紀学会会員の皆様には以下の趣旨を参照の上，広くご加入いただきたく，お知らせいたします。

日本学術会議・IGBP分科会・PAGES小委員会では，日本における古気候・古環境研究の益々の発展を図るため，関連する様々な学会・研究会等に呼びかけて，多分野横断型のメーリングリスト（Japan-PAGESリスト）を，新たに立ち上げることに致しました。

**【趣旨】**

PAGES(Past Global Change)は,IGBP(国際地圏・生物圏研究プログラム)の下で,地球環境問題の解決と気候・環境の将来予測に資するための,古気候・古環境研究の国際的なコーディネートをを行うために,1991年から活動を続けている国際的な研究者組織(<http://www.pages.unibe.ch/>)であり,日本学術会議には,当初から,その国内対応のためのPAGES小委員会が設けられ,国内外の研究状況の交流・分析が行われています.PAGESが対象とする分野は,第四紀の様々な時間スケール(更新世,完新世,歴史時代,前世紀など)における,グローバルからローカルスケールの気候や海洋,生物地球化学,生態系プロセス,生物多様性,そして人間活動との関連です.

日本国内では,これまで,多くの分野で古気候・古環境に関する研究が活発に行われてきた反面,研究立案や成果にかかる交流が個別の分野内にとどまり,必ずしも広く交流されて来なかったため,気候・環境変動メカニズムの総合的な理解にむけた議論が広く行われにくいことや,分野横断型の新たな学際的研究の展開にむけた分野間・研究者間の調整が進みにくいといった弱点がありました.

そこで,PAGES小委員会では,分野間の交流と連携の推進を目的とした,以下のメーリングリストを作成することに致しました.

**【名称】**

Japan-PAGES メーリングリスト

**【目的】**

1. 地質学,地球化学,古生物学,地理学,第四紀学,古海洋学,雪氷学,木材学,歴史学,考古学,花粉学等々の古気候・古環境復元に関係する全ての分野,及び,気象学,気候学,海洋学,生態学等々の直接観測するデータに基づいて近過去～現在の気候・環境変動やその将来予測研究を行っている全ての分野から,研究者の参加を得ること.
2. グローバル～ローカルスケールの気候・環境変動の総合的な理解とそのメカニズムの解明や,分野横断型の学際的共同研究の立ち上げ等のための,多分野にまたがる日常的な議論と情報交換を行うこと.
3. 定期的開催される関連学会等(地球惑星連合大会など)に向けた,「古気候・古環境関連セッション」の企画立案・講演募集・相互調整を行うこと.
4. PAGESその他,国内外の古気候・古環境研究の学問的・制度的・予算的状況についての,国内の関連研究者に対する迅速かつ正確な情報伝達を行うこと.

**【参加方法】**

[pages-j-pub\(at\)geos.ees.hokudai.ac.jp](mailto:pages-j-pub(at)geos.ees.hokudai.ac.jp) という名前の,「メンバーのみ投稿可」のメーリングリストを作成します.このメーリングリストに登録希望の方は,PAGES小委員会のメーリングリスト担当委員である,北大・地球環境の入野さんあて([irino\(at\)ees.hokudai.ac.jp](mailto:irino(at)ees.hokudai.ac.jp))に,「氏名・メールアドレス・所属・専門分野(研究・専攻内容など)」の情報を,お送りください.尚,いただいた情報については,メールアドレスをメーリングリストに登録するために用いるだけで,決して公開などはしません.

メーリングリストの趣旨にご賛同頂ける,多くの関連研究者(学生・院生を含む)の皆さまの参加をお待ちしております.

日本学術会議・IGBP分科会・PAGES小委員会 委員長 中塚 武(北大低温科学研究所)

## 二人の先学の死

藤井昭二

第四紀学界の二人の先学がお亡くなりになった。お知らせするとともに、お悔やみ申し上げます。

一人はコロンビア大学の教授であった、Rhodes W. Fairbridge 博士で06年11月6日肺炎で91歳で亡くなられた。もう一人は既報の中国科学院 劉 東生院士でリンパ腺をこの2年患われそれがもとで08年3月6日亡くなられた。

Rhodes と逢ったのは1969年パリのINQUAの大西洋岸の巡検からで、海水準の変動に関心があったので、その後INQUAや巡検でいつもお会いし、いろいろと教えを受けた。その頃“縄文海進”が世界中にあったか？が大きな話題であった。

Fairbridge(1961)はいわゆる海水準変動のFairbridgeカーブで有名で、現在でも考古学の人の中では話題になるようで、時々お目にかかることがある。彼がオーストラリアの出身だったことがこのカーブに現れている。地球科学の研究者はvan Nostrand ReinholdのEncyclopedia Earth Scienceのお世話になったことがあるであろう。15冊のうち、Oceanography, Atmospheric Sciences and Astrology, Geomorphology, Geochemistry and Environmental Sciencesの4冊を単独で監修し、Sedimentology, Paleontology, World Regional Geology Part I Western Hemisphere, Climatology, Soil Science Part 1, Physics, Chemistry, Biology, Fertelity and Technologyの5冊を共編者と纏めている。

大学の研究室の入り口に「土のことは土に聞け、石のことは石に聞け」とすると彼らは答えてくれるであろう」という木の札がかかっていた。長い間私はマタイ伝からの引用と思っていたが、聖書のどこにもこの言葉はなかった。原典を教えて下さいと久しぶりに手紙を書いたところ、奥さんから前記になくなったこと、亡くなるすぐ前まで書き物をしていたこと、EncyclopediaはCharles W. Finkleがひきついでくれたこと、質問の原典はわからないとの返事をいただいた。Rhodesはいつも原稿を読むかタイプに向かっていました。

劉 東生院士は中国の黄土高原の黄土の研究で知られている。黄土に挟まれている古土壌をうまく利用し、年代を決め、堆積環境を明らかにし海底のMISとの関係を明らかにした。中国の第四紀研究を進め、後にINQUAの会長となり、世界の第四紀研究に貢献した。劉さんとは1986年のカナダのINQUAの巡検から親しくなり、彼はその後INQUAの会長として北京の大会を成功させている。リヒトハウフェンのCHINAの中国語訳を作りたいのだが、北京にないので日本のCHINAをコピーしてくれと頼まれ用意した。経団連会館で「リオからの道」をどのように受け止めるか会合を開いたときパネリストとして来日していただいたり、別の機会に黄土高原の講義をしていただいたりした。温厚な方で質問にいつも丁寧に答えてくれていた。

世界の第四紀研究にとって痛手であるが、その上に立って先に進むのがお二人えの最大の供養であろう。

<幹事会より> 藤井昭二会員からは上記の文を2008年5月26日に寄稿していただきました。劉 東生 INQUA 元会長の業績等については、第四紀通信 15 巻 3 号掲載の関連記事も参照下さい。

## 堀江正治先生 訃報

2008年7月6日午前、堀江正治先生が、別府にて肺炎で逝去されました。享年81歳でした。先生は本学会会員、INQUA 名誉会員で、琵琶湖掘削などを指導され、第四紀古環境学・古陸水学で国際的な業績をあげられたことはよく知られております。気候・地球環境変動が地球規模の課題として大きく取り上げられる時代にあって、この分野の先頭に立ってこられた先生のご逝去は学会にとって、非常に残念なことであります。心からご冥福を祈ります。

(竹村恵二)

<幹事会より> 第四紀通信次号(第15巻5号)に紙碑を掲載する予定です。

## 日本第四紀学会講習会

### 「土器の野焼きと調理に関する実験考古学」参加報告

佐々木由香（パレオ・ラボ）

日本第四紀学会主催、東北芸術工科大学考古学研究室・野焼き研究会共催の講習会が、2008年6月7-8日の2日間の日程で東北芸術工科大学にて開催された。本講習会では、先史・古代の土器作り技術や調理形態の復元に関わる民族考古学と実験考古学の研究実践を紹介することを目的に、以下の3つのテーマにそった発表と実験のワークショップが行われた。テーマは、弥生時代以降に列島に広がった「覆い型野焼き」のバリエーションの検討と、先史・古代の炉やカマドにおける「土鍋調理」のスス・コゲパターンを解明するための実験、土器附着炭化物の内容物を推定する方法の開発のための調理実験などである。講習会は、日本第四紀学会会員および考古学研究者と学生を対象とし、53名の参加があった。

1日目の午後は発表があった。まず今回の野焼き実験にも関わる小林正史氏（北陸学院大学）による「民族誌からみた土器の野焼き技術」の発表では、東南アジアでの土器野焼き方法の基本特徴を整理し、実際出土した弥生土器から土器焼成方法を類推した。次に北野博司氏（東北芸術工科大学）による「スス・コゲからみた古代の土鍋の使用形態」の発表では、カマ

ドで調理した土器のスス・コゲのパターンやカマドの構造などから調理用途の推定がどこまで可能であるかが実験データを基に紹介された。庄田慎矢氏（日本学術振興会特別研究員）の発表では、「土器附着炭化物の正体をさぐる」として附着物を通じた土器の機能研究の事例紹介と、機能研究に結びつけるための分析手法の実践例が紹介された。最後の宮田佳樹氏（国立歴史民俗博物館）の「炭素年代測定と安定同位体を用いた食性研究」では、AMS法による放射性炭素年代測定と炭素・窒素安定同位体分析の原理的な解説の後、土器附着炭化物を用いたステロール分析の実践例が紹介された。発表だけでも充分濃い内容であったが、発表後、所定の時刻を過ぎてから実験準備を行い、1日目を終えた。

2日目の実験では、北野博司氏と東北芸術大学学生の協力のもとに、野焼き・調理実験ワークショップが行われた。参加者は、あらかじめ用意された土器を用いて2種類の野焼き実験（北部九州の弥生時代後期をモデルにした薪節約高密閉型と北部九州の弥生時代早・前期をモデルにした低密閉型）と、炉調理実験、カマド調理実験の4班に分かれ、実験の観察と記録作



カマド（左：1つ掛けカマド、右：2つ掛けカマド）による調理実験を行う参加者。この後カマドを解体し、調理使用後の土器の使用痕跡を観察した。（撮影：佐々木由香）

成を参加者全員で行った。昼食を挟んで、夕方には一部の班は実験土器を室内で観察し、分析用のサンプリングなどを行った。天候に恵まれた実験日和の中、昼食は復元土器で調理したご飯やおかずなどをおいしくいただいた。狭い空間で複数の実験を併行して行ったため、各実験から濛々とする煙に目が痛くなり、時折涙をこらえながらの作業となったが、適宜実験の解説が入り、同時にさまざまな実験の成果を目の当たりにすることができたのは大変貴重な経験であったと思う。特にカマド調理実験では、実験後に復元カマドを解体して、カマドに設置されていた土器のスス・コゲのパターンを観察することができた。長胴鍋の1個掛けと2個掛けのスス・コゲ付着パターンの検証では、前日の発表で知識を得た出土遺物のパターンと同様なパターンを目の前にして、一同から驚きの声があがった。頭では理解できていても、実際どのようにススやコゲが形成されていくのか、また土器内に炭化物が形成されていくのかはイメージできなかったが、実物を見ながらデータを採取することができた。土器の野焼き実験では、2つの方法で焼成された、北部九州の弥生時代早・前期と後期土器の黒斑・火色の特徴の違いがどのような条件で形成されるのか、すなわち

覆いの密閉度や、主熱源の相対的な量、設置角度、器形などが痕跡に与える影響と相互関係について一定の見通しがえられたことが成果といえる。また当日のみの実験だけではなく、今後焼成痕跡のパターン解析や、調理実験の内容物に関する同位体分析、走査電子顕微鏡での観察が行われる予定である。実験は、遠方からの参加者が多かったため、夕方に集合写真を撮影して解散となった。実験でかぶった煙は帰りにもとれず、車中周りの乗客を気にしながらの帰宅となった。今回の参加者はほぼ考古学関連であり、第四紀学会からの参加者は2名にとどまった。実際出土遺物を目にしていなくても関心が高まらないのかもしれないが、ワークショップの内容は多岐に渡っており、参加者の関心に応じて適宜アレンジすることが可能であったため、少しでも興味のある多くの会員の参加が望まれた。

実験には多数の土器および燃料材を必要としたため、この日の実験のために、東北芸術工科大学の学生諸氏らは時間をかけて入念に準備をしてくださった。2日間に渡る充実した講習会を運営され、また講習を指導された皆様にあためて御礼申し上げます。



複数の調理対象物を混合して調理した場合の炭素および窒素の同位体値について調べるため、上昇温度を記録しながら調理実験を行う参加者。(撮影：佐々木由香)



## 日本第四紀学会2007年度第8回幹事 会議事録

日時：2008年6月15日（日）13:00-17:00

場所：日本大学文理学部8号館レクチャーホール

出席者：町田 洋，遠藤邦彦，水野清秀，百原 新，  
吾妻 崇，鈴木毅彦，苅谷愛彦，三浦秀樹，奥村  
晃史，岡崎浩子（記録）

### 1. 活動報告

#### (1) 庶務

1) 会員動向：4・5月分入会5名，退会9名。2) 寄贈本：火山都市国際会議島原大会報告書/新潟大学理学部地質科学 SCIENCE REPORTS OF NIIGATA UNIVERSITY/研究紀要（地理）第43号。3) パンフレット等学会への連絡物：9件 このうち，大阪歴史学会から大阪府の博物館存続の報告。大学・機関別認証評価に係る専門委員（平成20年度実施分）の選考結果は，選考されなかった。平成21年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞及び若手科学者賞受賞候補者推薦については，推薦しないこととする。

#### (2) 編集

1) 第四紀研究第47巻4号2007年神戸大会特集号（論説6編）の編集作業中2) 第47巻5号は論説5編，短報1編，INQUA報告が入る予定。3) 6月15日現在，手持原稿は18編（論説9編，短報4編）である。4) 「執筆要項」の見直しをすすめている。

#### (3) 広報

1) 第四紀通信15巻3号編集完了。電子版をHP掲載済。郵送版を会員配布済。2) ホームページの管理・更新，主要な情報掲載が報告された。3) 学会・幹事会ML関係：2008年4月30日JAQUAを運用開始。現在まで14件，登録者950。同日幹事会ML運用開始。いずれも移行作業は滞りなく完了。現在までに大きなトラブルは生じていない。

#### (4) 行事

1) 大会：プログラムは口頭42件ポスター26件で口頭が多いので時間を9時からとして調整する。講演要旨については著作権は全員問題なかったが，文献漏れ等のチェックを行う。緊急セッションをおこなうかどうかを検討する。普及講演会は極地研と科学博物館の共催とする。2) 来年の大会は琵琶湖博を予定。参加費に入場料と含む。

#### (5) 渉外

1) 学術会議：国際対応分科会報告，地球惑星圏分科会，地球圏人間圏分科会の報告をうけた。2) INQUA特別委員会案を次回幹事会に提出する。3) 日本地球惑星学会連合評議会，連合の公益法人化問題準備会

に代表委員を出す（三浦委員）。

(6) ジオパーク委員会（町田会長）

第1回委員会がおこなわれた。委員11名。日本ジオパークネットワークを作る。日本独自の生きたジオパーク作り，防災などとも関連をもたせる。

### 2. 審議事項

#### (1) 庶務

1) 後援依頼：北海道開拓記念館特別展への後援を行う。2) 国際地理オリンピック日本委員会からの支援依頼1口1万円，予備費からの支出については予算案次第とする。3) 転載許可申請書（早津賢二様）許可された。

#### (2) 会計

2008年度予算案に審議した。1) 2008年度は役員改選年度で，積立金35万円の取り崩しおよび支出として70万円を予定した。2) 2007年度の会費収入は予算達成予定，支出もほぼ予算どおり。3) 2008年度でアップさせたもの；会誌印刷費，講演会・シンポジウム費，学会賞費，講習会費。4) INQUA対策費は積立金とは別に10万円を計上した。5) 研究委員会補助金は仮上限として6万円の5委員会で予算立て。6) 学協会分担金は仮計上で5万円とした。7) なお，今回提出のものは6万円のプラス予算だが収支差額0円での予算立てでも問題はなく，予備費積立金として多額の繰越金にならないように毎年50万円を積み立ており，緊急時に資金の活用ができように対策を取っている。8) 50周年記念委員会はCD出版まで継続するが，今年度は計上されない。決算はまだ出ていないがCD出版には余裕がある。9) 研究委員会助成金・シンポジウム・講習会予算などの流動的活用について，普及講演会などアウトリーチ的活動を研究委員会に声をかける。学会賞受賞者に記念講演をおこなってもらってはどうか。研究委員会に来年の計画をだしてもらい，計画が遂行できなくなったら返上してもらおう等の意見がでた。

#### (3) 広報

通信15巻4号（7月中旬HP掲載，8月1日発行）原稿について検討。

#### (4) 幹事長

1) 学会賞・論文賞選考に関連して，選考方法，受賞者の記念講演，賞状や副賞などについて意見交換を行った。2) 2008年功労賞受賞候補者について議論を行い，推薦候補者を絞り込んだ。3) 評議員の役割について，次期評議員会にて内規として提案することにし，幹事長が案を作成することにした。4) 知的財産権に関連した部分の会則改訂案・規定案について検討し，次期評議員会で正式に提案することにした。

## 国立極地研究所地圏研究グループ助教の公募について

### 1. 所属・職名・採用人員

研究教育系地圏研究グループ 助教 1名

### 2. 採用条件

任期は3年間。任期終了時に3年間の実績を評価し、審査結果によっては引き続き3年間の継続が可能です。ただし、助教として可能な最長勤務期間は9年間です。

### 3. 公募の趣旨

国立極地研究所は、大学共同利用機関法人「情報・システム研究機構」の構成研究所として、極地に関する科学の総合研究と極地観測の推進を目的に、南極観測事業の中核的实施機関としての役割を担うとともに、「総合研究大学院大学」の基盤機関として複合科学研究科の極域科学専攻における大学院生に対する教育研究指導を行っています。本公募では、研究教育系地圏研究グループの助教として極域、特に南極大陸およびその周辺地域における地球科学現象の研究に取り組みと共に、本研究所の先進プロジェクト研究グループの研究課題「極地の過去から「地球システム」のメカニズムに迫る - 第四紀の極地環境・大気組成変動の高精度・高時間分解能復元 -」（<http://www.nipr.ac.jp/info/notice/senshin.html>）のグループメンバーと協力しながら、熱意を持って、広範囲な研究・教育に積極的に取り組んでいただくことを期待します。

### 4. 研究分野・職務内容

南極地域観測実施中核機関、大学共同利用研究機関および総合研究大学院大学基盤機関としての国立極地研究所の役割等をよく理解したうえで、以下のような研究分野・職務内容に取り組める方を求めます。

- (1) 第四紀の南極氷床変動史と南極周辺の海洋環境変動史を明らかにするために地形学・地質学的手法によるフィールドワークおよび試料の採取・解析を行うことができ、地球システムにおける南極氷床・南大洋が果たす役割を解明しようとする意欲を持つ方。また、そのために、南極地域における現地研究観測の企画・立案・遂行を自ら積極的に行える方。
- (2) 第四紀学的視点から、年代学、地形発達史学、氷河地形地質学、堆積学、古海洋学、古生物学、古地磁気学、同位体地球化学、氷床・気候モデリング等の国内外の様々な分野の研究者と議論を進めつつ、これらの手法を総合的・有機的に関係づけて、国際連携を含む幅広い研究を企画・立案・遂行する意欲を持つ方。
- (3) 総合研究大学院大学極域科学専攻の教員として、極地をフィールドに上記の研究と関連した大学院生の教育・指導を行い、全球的規模の視野をもつ、新たな地球システム科学を切り拓くことができる優れたフィールドサイエンティストの養成に積極的に取り組む意欲を持つ方。

### 5. 応募資格

博士の学位を有すること（平成21年3月末までの学位取得見込者を含みます）。

### 6. 提出書類

- (1) 応募書（カバーレターに相当するもので 氏名 学位 所属・職 所属先住所、電話番号、電子メール 現住所、電話番号、電子メール、を記載する。）
- (2) 履歴書（大学卒業以降の学歴、職歴、賞罰、資格は必ず記載し、顔写真を添付する。書式は自由。）
- (3) 研究業績目録（博士学位論文、査読がある原著論文、査読がない原著論文、総説、著書、その他、に分類して目録を作成する。）
- (4) 主要論文（5編以内）の別刷り（またはコピー）を各1部
- (5) 代表者としての科学研究費補助金等の外部資金獲得の実績表（名称、年度、金額）
- (6) これまでに行ってきた研究の概要（2,000字程度）

- (7) 4. 研究分野・職務内容の(1)(2)で示した内容と関連づけたうえでの、今後の研究に対する抱負(2,000字程度)
- (8) これまでの研究や経験を生かしたフィールドワークを中心とした教育への抱負(1,000字程度)
- (9) 応募者について意見を聞ける方2名程度の氏名と連絡先
- (10) 推薦書(推薦書がある場合)

7. 応募締切

平成20年8月29日(金)17時必着

8. 選考・着任時期

応募締切後、1～2ヶ月以内に選考を行う予定で、その過程において面接を行うことがあります。着任時期は平成20年12月以降の早い時期を予定しています。

9. 応募書類提出先

〒173-8515 東京都板橋区加賀1-9-10 情報・システム研究機構 国立極地研究所  
 管理部総務課人事係なお、封筒の表に「地圏研究グループ教員応募書類」と朱書きし、郵送の場合は書留にしてください。

10. 問い合わせ先

- (1) 研究・職務内容に関すること  
 国立極地研究所 研究教育系・教授 渋谷和雄  
 電話：03-3962-4695 E-mail：shibuya(at)nipr.ac.jp
- (2) 事務手続きに関すること  
 国立極地研究所 管理部総務課人事係  
 電話：03-3962-1367, ファックス：03-3962-2529

11. 個人情報保護

本募集に関連して提出された個人情報については、選考の目的に限り利用し、選考終了後は、教員として採用された方の情報を除き全ての個人情報は責任を持って破棄します。

12. 参考

国立極地研究所研究教育系地圏研究グループには、現在以下の教員が配置されています。  
 教授：渋谷和雄(固体地球物理学), 白石和行(地質学), 本吉洋一(地質学), 小島秀康(隕石学)  
 准教授：土井浩一郎(測地学), 野木義史(固体地球物理学), 船木 實(岩石磁気学), 三澤啓司(宇宙化学), 外田智千(地質学)  
 助教：青山雄一(測地学), 今榮直也(隕石学), 海田博司(隕石学), 金尾政紀(固体地球物理学), 三浦英樹(地形学・第四紀地質学), 山口 亮(隕石学)

なお、国立極地研究所のホームページは、“<http://www.nipr.ac.jp>”です。  
 また、国立極地研究所は平成21年5月頃に東京都立川市へ移転する予定です。

## 立正大教員公募

2008年7月3日

関係各位

立正大学地球環境科学部長 米林 伸

立正大学では、このたび下記の要領で教員を公募しますので、関係者への周知方よろしく  
お願いいたします。

1) 所属：地球環境科学部環境システム学科

2) 分野・資格：環境地学

固体地球表層の環境科学に関する十分な研究業績があつて、博士の学位を有し、岩石、地質、土壌、第四紀等のうち複数の分野を含む地学関係の学部教育および大学院学生の指導(いずれもフィールドワークを含む)を熱意をもって行い、地球環境に関する共同研究にも積極的な者。

3) 職階：教授または准教授

4) 採用予定日：2009年4月1日

5) 提出書類：(いずれもA4判縦置き横書き)

履歴書(写真貼付・所属学会を記す。)

研究業績調書(各業績について査読の有無を記す)

主要論文5編の別刷またはコピー

研究教育の抱負(1500字程度)

人物等についての照会先(2名の氏名・連絡先)

6) 書類送付先および応募期限：

〒360-0194 熊谷市万吉1700 立正大学地球環境科学部長 米林 伸

(封筒表面に環境地学教員応募と朱記し、簡易書留とすること。)

2008年8月22日必着

7) 問い合わせ先：

〒360-0194 熊谷市万吉1700 立正大学地球環境科学部 田村俊和

e-mail tamura(at)ris.ac.jp

注 学部・学科の概要は<http://ris-geo.jp/intro.html>, <http://www.es.ris.ac.jp/~es/>  
等を参照。

複数の候補者に対して9月上旬に面接を行い、その際健康診断書の提出を求める。なお、旅費は支給できない。採用後は熊谷校地の近くに居住すること(片道1時間程度以内が望ましい)。

## 島原市専門職員の公募

長崎県島原市は地質学・火山学を専門とする平成21年度採用予定の市役所職員の募集を以下のように行います。受験資格は大学卒業程度の学力を有し、採用時に満40歳未満の人となっています。

島原半島の3市(島原市・南島原市・雲仙市)はユネスコが支援する「世界ジオパーク」加盟に向けて準備を着々と進めています。今回の募集は、この【島原半島ジオパーク】を専門に担当する職員を公募するものです。島原半島の地質や雲仙火山についての知識が深く、アウトリーチ活動に積極的な人の応募を特に歓迎します。

【島原半島ジオパーク】については以下のURLを参照してください。

<http://www.city.shimabara.lg.jp/section/shokan/geopark/>

---

### 島原市職員公募(平成21年度採用予定)

1. 職種および採用人数：地質火山調査業務 若干名
2. 受験資格：大学卒業程度の学力を有し、昭和44年4月2日以降に生まれた人で、大学等で主に地質又は火山に関する課程を専攻した人  
採用後は市内に居住できる人
3. 受付期間：平成20年7月22日(火)から平成20年8月22日(金)まで
4. 試験日  
第一次  
・体力試験 平成20年9月20日(土)  
・学力試験 平成20年9月21日(日)  
第二次  
一次試験合格通知の際にお知らせします。

そのほか詳しい募集要項は以下のURLを参照してください。

<http://www.city.shimabara.lg.jp/section/shiko/bosyu2008/index.html>

## 若手研究者を支援する研究助成の募集（第4期）

株式会社パレオ・ラボ

### 1. 助成の趣旨

弊社では、平成16（2004）年10月、年代測定を目的として<sup>14</sup>C測定専用の加速器質量分析計を導入し、年代測定業務を開始いたしました。これを期に、企業として社会に還元するため、また広く弊社AMS年代測定をご利用いただくため、若手研究者を対象として研究支援事業を第3期に引き続き企画いたしました。

### 2. 応募条件

- 1 現在35歳以下の研究者（定職についていない方）および大学院生（考古学分野2名、自然科学分野2名）
- 2 研究目的が年代測定を必要とするテーマであること
- 3 過去に研究発表1本または論文1編以上を発表した者
- 4 原則として、助成終了後1年以内に研究助成の内容を含む論文または口頭発表を公表すること（発表内容を示す論文・口頭発表内容要旨を提出）
- 5 研究助成の内容を含む発表および論文執筆の際、パレオ・ラボ若手研究者を支援する研究助成によるものであることを明記すること

### 3. 支援内容

以下の2項目を支援いたします。

- 1 研究費として15万円を支給（採用後1ヶ月後に指定口座に振り込み）
- 2 AMS年代測定10試料を無料測定  
ただし、測定期間は下記の期間限定  
平成20（2008）年9月1日～平成20（2008）年10月31日および平成21（2009）年4月1日～平成21（2009）年8月31日

### 4. 支援期間

平成20（2008）年9月1日～平成21（2009）年8月31日（測定期間は限定されます。ご注意ください。）

### 5. 応募方法

申し込み用紙（弊社指定用紙、PDFまたはエクセルファイルをダウンロード）、履歴書（書式なし、写真添付）、研究実績表（書式なし）を郵送

郵送先 〒501-6264 岐阜県羽島市小熊町島5-63 アルビアル羽島1F  
パレオ・ラボ東海支店 研究助成担当係

### 6. 応募締め切り 平成20（2008）年7月31日（必着）

### 7. 選考方法等

弊社顧問（3名）が選考し、審査結果は申請者に書面にて通知します。

### 備考

なお、研究内容等の個人情報、外部に漏れないように厳重に管理いたします。

また、助成を希望される方は、弊社の試料処理またはAMS年代測定の精度等を十分理解していただくことが必要です。予めホームページをご覧ください。不明点については弊社の試料処理担当および測定担当にお問合せください。

問い合わせ先 jyosei(at)paleolabo.jp

## 猿橋賞募集

2008年6月

学協会会長 殿

女性科学者に明るい未来をの会  
会長 古在由秀

女性科学者に明るい未来をの会は、第29回女性科学者に明るい未来をの会「猿橋賞」の推薦の募集を開始いたしました。募集要領をホームページ<http://www.saruhashi.net/>に掲載致しましたので、推薦書類はそこからダウンロードして下さるようお願い致します。

### 記

- 1) 対象：推薦締切日に50才未満で、自然科学の分野で、顕著な研究業績を収めている女性科学者
- 2) 表彰内容：賞状、副賞として賞金30万円、1件（1名）
- 3) 応募方法：所定の用紙（当会のホームページからダウンロード）に、推薦者（個人・団体、自薦も可）・受賞候補者の略歴、推薦対象となる研究題目・推薦理由（00字程度）、及び主な業績リスト（指定は1頁です。やむを得ない場合でも追加は1頁までです）を記入して、主な論文別刷10編程度（2部ずつ、コピーも可）を添え、5)の推薦書類送付先までお送り下さい。
- 4) 締切日：2008年11月30日
- 5) 推薦書類送付先：  
〒247-0022  
横浜市栄区庄戸 5-14-3  
女性科学者に明るい未来をの会  
（封筒には、「猿橋賞推薦書類」と明記して下さい。書類は、猿橋賞選考のためにのみ選考委員会などで用いられます。書類は返却いたしませんのでご了承下さい）

なお、この件についての問い合わせは、下記に電子メールでお願いいたします。  
[saruhashi2008@saruhashi.net](mailto:saruhashi2008@saruhashi.net)

女性科学者に明るい未来をの会  
[saruhashi2008@saruhashi.net](mailto:saruhashi2008@saruhashi.net)

## 第111回深田研談話会のご案内

(財)深田地質研究所では、「地質学及びその関連分野における第一線で活躍中の研究者と、地質・地質工学関係の、特に若手技術者との相互交流の場を設け、交流を通して応用地質学・地質工学の実践と技術の向上を図る」ことを目的として、「深田研談話会」を開催しております。

「深田研談話会」は技術士 CPD ( 継続教育 ) 履修実績として申請できます。

### 第111回深田研談話会

テーマ：「石油・天然ガスの成因 - 生物起源か、非生物起源か? - 」

講師：林 雅雄氏

((独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構,元出光石油開発(株)取締役開発部長)

日時：2008年9月12日(金)15:00~17:00

会場：財団法人 深田地質研究所 研修ホール

(地図) <http://www.fgi.or.jp/>

都営地下鉄三田線 千石駅下車 徒歩5分

参加費：無 料

#### <講演内容>

石油や天然ガスの有用性が認識されて150年が経過したが、その成因について科学者達が論争を始めたのは、実用開始より100年も前のことであり、今でも論争が繰り返されている。最近の原油価格の急上昇が日常生活に深刻な影響を与えるようになったことから、この古くて新しいテーマに対して、一般の方々も大きな関心を寄せているように見受けられる。本講演では、有機起源説と無機起源説という対立する二つの成因説について、アニメ図面を駆使して判り易い解説を行い、石油探査30年の実務経験に基づいて、どちらの説が妥当かの判定を試みる。

申込方法：参加ご希望の方は、E-mail, FAX またハガキにより申込み願います。  
その際、氏名・所属・連絡先(住所・電話番号)をお知らせ下さい。

申込先：財団法人深田地質研究所

〒113-0021 東京都文京区本駒込2-13-12

TEL: 03-3944-8010 FAX: 03-3944-5404

E-mail: [fgi\(at\)fgi.or.jp](mailto:fgi(at)fgi.or.jp) URL: <http://www.fgi.or.jp/>

## 深田研ライブラリーのご案内

深田研ライブラリーは過去の深田研フォーラムのproceedingsですが、図表も豊富で、一般普及向きのため大変読みやすい内容となっています。これを1冊500円で販売します。ライブラリー一覧表のpdfをご覧頂いて、ご希望の冊子がありましたら、送付先、希望号の冊数を深田地質研究所・川村(kichiro(at)fgi.or.jp)あてにメールして下さい。



No.	テーマ	講演者	単価 (円)
1	葛生石灰岩は地すべり体か?	佐藤 正	500
2	シーケンス層序学入門 (Sequence stratigraphy : An introduction)	増田富士雄	500
3	付加体の構造地質学－研究の現状と地質調査における問題点－	狩野謙一	500
4	最近の活断層調査の成果と問題点	山崎晴雄	500
5	オリストストロームの構造解析	吉田鎮男	500
6	野外火山地質：露頭を読む	小野晃司	500
7	岩石・岩盤の風化プロセスとその速度	松倉公憲	500
8	堆積物からよみとれる突然かつ急激な気候・環境変動のダイナミクス	福沢仁之	500
9	最近の第四紀テフラの研究	町田 洋	500
10	活断層からの地震予測－現状と問題点	松田時彦	500
11	褶曲の見方	原 郁夫	1,500
12	堆積構造の見方	伊藤 慎	在庫なし
13	断層および断層岩－研究の現状と現場への応用－	金折祐司	500
14	地すべりの『そとみ』と『なかみ』	大八木規夫	1,000
15	後期新生代のカルデラ火山群の地質	山元孝広	500
16	堆積構造の見方 その2	伊藤 慎	500
17	ダイナミック地層学－堆積と累重の過程を明らかにする新しい地層学	増田富士雄	500
18	地球情報学－特にその統計処理	正路徹也	500
19	岩石の風化と社会への影響	千木良雅弘	500
20	古地震学－活断層の活動様式と地震の発生様式	粟田泰夫	在庫なし
21	新技術CHIME地質年代測定法	鈴木和博	500
22	地形・第四紀層からみた活断層とその最新の研究課題	岡田篤正	500
23	土壌・地下水汚染に関する調査・対策技術	奥村興平	在庫なし
24	火山砕屑物の堆積構造－露頭でどこまで判るか－	宇井忠英	500
25	デュプレックスとメランジュ	村田明広	500
26	地形から地質を読む	鈴木隆介	500
27	中国の水問題	新藤静夫	500
28	火山とその産物の見方	荒牧重雄	500
29	地形解析	平野昌繁	在庫なし
30	汽水域・低湿地の自然史と開発・保全	徳岡隆夫	500
31	地層と堆積サイクル	滝沢文教	500
32	数値地図で何が出来るか (CD-ROM付き)	野上道男	1,200
33	砂浜海岸の地形変化	砂村継夫	500
34	地すべりのための地質区分	黒田和男	500
35	骨材資源の枯渇とコンクリート文明の行先	有田正史	500
36	成因論的堆積盆解析ツールとしてのシーケンス層序学-その手法と実例-	高野 修	500
37	断層の深部を探る	高木秀雄	500
38	岩盤崩壊メカニズム推定のための数値解析の利用	進士正人	500
39	付加体の地質構造の見方	狩野謙一	500
40	大陸の分裂・集合テクトニクス－黒瀬川帯を例として－	波田重熙	500
41	自然環境保全の変遷と最新の技術動向	高橋和也	500
42	<未刊>	—	—
43	岩盤状態の分布と地質プロセス	横田修一郎	500
44	西南日本の第四紀変動論	竹村恵二	500
45	広域水循環モデリング技術による水環境総合評価に向けて	登坂博行	500
46	日本列島の地下深部構造と活断層	木村 学	500
47	地すべり崩土の運動とその拡散範囲の予測	中村浩之	500
48	熱水系における水の循環と粘土鉱物の生成	井上厚行	500
49	活断層研究の最近の動向	杉山雄一	500

No.	テーマ	講演者	単価 (円)
50	東北地方北部の第四紀テフラ	町田 洋	500
51	<未刊>	—	—
52	<未刊>	—	—
53	地震考古学から21世紀の大型地震を考える	寒川 旭	500
54	岩石の亀裂進展機構と破壊靱性の評価法	瀬戸政宏	500
55	神戸層群の地すべりとGIS	藤田 崇	500
56	固体地球科学における海洋観測の展開	三ヶ田 均	500
57	岩石・土の色を測るー地球・環境の聴診器の開発ー	中嶋 悟	500
58	<未刊>	—	—
59	空中レーザー・マッピングとデジタル写真技術の現状とその応用	藤岡展价	500
60	三浦層群中の混在岩の成因ー地すべりか液状化か？ー	小川勇二郎	500
61	<未刊>	—	—
62	横浜市における地震防災研究	齋藤正徳	500
63	ESR法による断層活動年代測定ーその原理と実践ー	福地龍郎	500
64	地球電磁気的方法による地震予測の現状と展望	上田誠也	500
65	<未刊>	—	—
66	<未刊>	—	—
67	<未刊>	—	—
68	<未刊>	—	—
69	自然由来の有害金属汚染とその分析方法	丸茂克美	500
70	地震に起因した土砂災害地点を訪ねてー関東地震(1923年)と北伊豆地震(1930年)に学ぶ	井上公夫	500
71	新生代後期, 西南日本のテクトニクスと火山活動	木村純一	500
72	<未刊>	—	—
73	<未刊>	—	—
74	地質工学の未来を拓く学際研究の展望ー他分野の学問・技術発展に寄与するためにー	渡辺邦夫	500
75	<未刊>	—	—
76	<未刊>	—	—
77	天然記念物って文化財なの？	桂 雄三	500
78	鴨川漁港弁天島の地質とテクトニクス：嶺岡オフィオライトの変形	小川勇二郎	500
79	<未刊>	—	—
80	地質リモートセンシング概論ー地球観測衛星画像の利用に向けてー	佐藤 功	500
81	川の成り立ちを水路実験で探る	池田 宏	500
82	森林斜面における表層土のクリープについて	園田美恵子	500
83	<未刊>	—	—
84	スマトラ沖地震による津波被害の実態	藤間功司	500
85	<未刊>	—	—
86	地形を見る目をつくばで磨こう	池田 宏	1,000
87	地下水からなぜヒ素が検出されるのかーグローバルな環境問題ー	島田允堯	500
88	岩盤力学の立場からGPS法を含む地震予知の可能性を探る	アイダノオメル	500
89	<未刊>	—	—
90	<未刊>	—	—
91	<未刊>	—	—
92	<未刊>	—	—
93	<未刊>	—	—
94	<未刊>	—	—
95	<未刊>	—	—
96	日本海の拡大に起因する関東平野の基盤構造ー首都圏を襲う長周期地震動の原因ー	高橋雅紀	500

No.	テーマ	講演者	単価 (円)
特(1)	付加体の地質学	水谷伸治郎	1,000
特(2)	火山とその産物	荒牧重雄	1,000
特(3)	風化と崩壊	千木良雅弘	1,000
特(4)	地質構造の見方	狩野謙一	1,000
特(5)	活断層からの地震の評価ー現状と課題ー	松田時彦	1,000
特(6)	岩盤工学特論ーその歴史と実際, 地質との融合ー	川本眺万 <sup>ア</sup> イダノオム	1,000

## “東海地震”防災セミナー2008[第25回]のお知らせ

昭和59年以来,毎年静岡市で開いてきましたが,本年も下記のとおり開催致します。関心をお持ちの方々のご参加を期待します。

日 時：平成20年11月6日(木)13:30-16:00

会 場：静岡商工会議所会館5階ホール(JR静岡駅北口西側)

テーマ：東海地震に備える

座 長：東海地震防災研究会 代表・世話人 静岡大学名誉教授 土 隆一

### 1. 中越沖地震と災害の教訓

産業技術総合研究所・活断層研究センター長 杉山雄一

### 2. 東海地震はどのように近づいているか

東京大学名誉教授 溝上 恵

主 催：東海地震防災研究会

連絡先：〒422-8035 静岡市駿河区宮竹1-9-24 土研究事務所 土 隆一

Tel: 054-238-3240 Fax: 054-238-3241

第四紀通信に情報をお寄せ下さい

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。

広報幹事：苅谷愛彦 (kariya(at)isc.senshu-u.ac.jp) 宛にメールでお送り下さい。

第四紀通信は奇数月月上旬原稿締め切り,偶数月1日刊行予定としていますが,情報の速報性ということから,版下が完成した段階でホームページに掲載するよう努力しています.奇数月15日頃にはホームページにアップするようにしていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会 専修大学文学部環境地理学研究室 苅谷愛彦

〒214-8580 川崎市多摩区東三田2-1-1 電話:044-911-1014 Fax:044-900-7814

広報委員:越後智雄・糸田千鶴 編集書記:岩本容子

日本第四紀学会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/qr/index.html> から第四紀通信バックナンバーのPDFファイルを閲覧できます。

日本第四紀学会事務局

〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町519番地 洛陽ビル3階

E-mail: daiyonki(at)shunkosha.com

電話: 03-5291-6231

FAX: 03-5291-2176